

研究所たより 研究所たより

協同総研のホームページ (<http://jicr.org>) のアクセスカウンタがこの10月1日で30,000を超えた。1999年9月に開設されて以来、約4年1ヶ月で30,000ということは、単純計算すると1日当たり平均約20ということになる。日本最大のアクセス数を誇るYahoo! JAPANの1日当たり約70万にはもちろん比べるべくもないが、それなりに世の中に協同総研の存在をアピールすることには貢献しているのではないかと思う。Webサイトからの入会申し込みも年に数件あり、Webサイトを見ての問い合わせのメールや電話も結構来る。今日も某新聞からの取材があった。ここで言う30,000という数字はいわゆる「ユニークアクセス」としてカウントしているもので、簡単に言うと同一のPC環境から複数回協同総研のホームページ(HP)にアクセスしてもカウンタは1回しか回らない仕組みになっている。トータルアクセス(ページビュー)ではこの2~3倍ということになるだろう。最近、アクセス解析というサービスを利用して見たが、大学や行政機関からのアクセスも結構あるようだ。

この4年の間に、インターネットをめぐる環境も大きく変化してきている。一番大きな変化は何と言ってもブロードバンドの普及だ。協同総研にも下り最大30MBという回線が入り、今後は映像の配信なども可能となる。一方、マイナス面としてはやはりウィルス問題がその筆頭であろう。研究所のメーリングリストも幾たびかのウィルス騒動に手を焼いた。今でも日に10通は海外からスパム

(迷惑)メール送られて来ており、ウィルス対策の費用もバカにならない。このHP立ち上げの中心となった手島理事より私がサイト管理を引き継いではや2年が経った。しかし、このサイトが当初目指していたものがどの程度実現できているかを振り返ると甚だ心許ない。『協同の発見』を中心とした記事データの公開とイベントや研究会の案内といった情報提供を中心にある程度の整備が進んできたと思うが、反面、研究所会員のWebサイトへの積極的参加や利用という課題にはほとんど応えられていない。研究所の活動の核の一つとしてWebサイトをいかに活用できるかがこれからの目標である。

この4年のさらに大きな変化としては、あらゆる団体や企業などにとってWebサイトの開設が「当たり前」になったということが挙げられる。NPOなどにしても情報公開の手段の第一位はインターネットであろう。「ワークスコープ」で検索してもかなりの数の団体を見つけられる。何かの機会に「労働者協同組合」や「協同労働」という言葉に興味を持った人が、まずネット検索でWebサイトから情報を得るとするのは今や当然の手順である。だからこそ、その団体・企業の「顔」となるHPには気を使わざるを得ない。そのHPのイメージからその団体の第一印象が決まることもあり得る。いずれにせよこの2年は、半ば菊地の趣味的なサイト運営をしてきたが、今後は、ある程度組織的にサイトの内容の決定や作業の分担を行うことに取り組んでいきたいと思っている。(菊地 謙)